

令和2年度 三次市立吉舎中学校学校評価シート

- 【中期経営目標】
- 1 確かな学力 ～ 「自学力」を育み、学び続ける意欲・学習習慣の定着
  - 2 豊かな心・健やかな体 ～ 生徒の主体性・自己有用感の向上
  - 3 健やかな体 ～ 心身ともに、逞しい生徒の育成
  - 4 信頼を集める学校 ～ 地域を生かし、地域に生かされ、信頼される学校

	短期経営目標	目標達成のための方策	評価指標	前年度実績	今年度		評価	達成状況	
					目標値	7月末実績値			
確かな学力	基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	・個に応じた指導の工夫（個別対応）	実力テスト（5教科）で30%以下の生徒の割合が3年生10%以下、1・2年生は20%以下とする 5教科の20%以下を0%にする	1年-92% 2年-100% 3年-77.2%	90%	1年-未実施 2年-88.0% 3年-100% 5教科20%以下 2年-88.0%	A 102%	2年生25人中22人 3年生全員 5教科20%以下 2年生25人中22人	
			保護者の満足度（アンケート「学力を高める取組をしている」）	91.1%	95%	92.6%	B 97.5%	生徒にしっかりと学力をつけていく必要がある。	
	「自学力」の育成（主体的に学ぶことのできる授業の創造）	・課題発見解決型（活用力育成）の授業の実施 ・ICTを活用した授業の創造 ・読書習慣の定着（読む・創造する力）	予習・復習を計画的に行っている	68.1%	80%	75%	B 93.8%	各教科で予習・復習の仕方などを具体的に示す。	
			『自らもっと学びたい・知りたい・調べたい』授業がある」と答える生徒の割合	70.4%	80%	74.4%	B 93%	生徒の学習意欲を高めるための授業改善を行う。	
			本を1か月に1冊以上読む生徒の割合	83.3%	85%	91.4%	A	朝読書が落ち着いてできている。継続する。	
			全教科、課題発見・解決学習の単元開発を行う	100%	100%	取組中	—	—	
	一人一人が、家庭学習の目標時間を設定して達成できる。	・予習・復習を生かせる授業づくり ・家庭学習とリンクした授業の実施 ・個に応じた自主学習ノートの勧め（未定着生徒への意欲付けを具体的にを行う。プリント配布も可）	家庭学習時間の各自の目標時間を達成した生徒の割合（アンケート）（年3回実施）	休日 55.5% 平日 48.5%	休日 90% 平日 90%	休日 70.0% 平日 77.1%	C 休日 77.7% 平日 85.7%	家庭学習の具体的な内容の提示や各学年での取り組みをさらに充実させる。	
			家庭学習の定着における保護者の満足度（アンケート）	78.8%	80%	71.1%	C 88.9%	学級通信やHP等で生徒の家庭学習の様子を保護者に知らせる。	
	豊かな心	○志のある生徒の育成 ○おもてなしの心を持った生徒の育成	・生徒の主体性・自己有用感の向上	「もっと考えてみたい」「もっと学んでみたい」という、学びへの意欲が高い生徒の割合を前回の意識調査より高くする（年3回実施）	1年 73.9%→66% 2年 66.7%→61% 3年 81.8%→80%	前回よりもポイントアップ	1年 84.2% 2年 72.0% 3年 61.5% ※2・3年の同一集団での比較ではアップ	A	・授業の導入やめあての設定を工夫することで生徒の興味・関心を高め、より主体的な学びとなるようにする。
				・生徒会委員会活動の活性化 ・部活動、ボランティア活動、体験活動・地域貢献活動の充実	生徒の満足感（アンケート「ボランティア活動に積極的に参加していると思う」）	1年 78.3%→83% 2年 88.9%→77% 3年 90.9%→90%	80%	1年 94.7% 2年 48.0% 3年 46.2% 全体 60.0%	C 75.0%
○自分の成長と周りの人の成長を素直に喜びあえる生徒の育成		・学校行事、生徒会行事の活性化	生徒の自己有用感（アンケート「体育祭や文化祭などやり遂げられてうれしく思う行事がある」）	1年 84% 2年 73% 3年 86%	80%	未実施	—	—	
健やかな体	1年間を通して基礎体力の向上を図る	・体力テストを2回実施、目標設定し、2回目の数値を向上させる	8種目中、5種目以上数値が向上する生徒の割合	38.8%	85%	2回目の体力テストを11月～12月で実施して評価する	—	—	
信頼される学校	地域を生かし、地域に生かされ、信頼される学校	・学校行事の充実と情報発信 ・総合的な学習の時間の充実や地域とのふれあい行事の充実 ・ボランティア活動の充実	<情報発信と公開> ホームページを充実（週1回以上の発信）する 学校通信（月1回以上の発行、地域への発信） <地域との交流> 年1回以上、行事やボランティア活動を通して小学校、高校、自治振興会、各種団体との連携を図る <外部人材の活用> 小中で人材バンクを作成し活用する（学力補充、スポーツ指導、営農指導、郷土史指導など）		100%	HP更新 100% 学校通信 100% 地域交流は実施不可 外部人材は未実施	A 100%	コロナ禍の中、情報発信に努めることができた。今後はウィズコロナとして予防を徹底したうえでの地域交流などを考えていく。	

\*評価について A：目標値を上回っている B：目標値の90～99% C：目標値の89%以下